

ペプチド (β -ラクタム環含有ペプチド C07D; 環状ジペプチドであって、その分子中にその環を形成するペプチド結合以外のペプチド結合を有しないもの、例. ピペラジン-2,5-ジオン C07D; 環状ペプチド型の麦角アルカロイド C07D519/02; 単細胞蛋白質, 酵素 C12N; ペプチドを得るための遺伝子工学的的方法 C12N15/00) [4]

注

(1) このサブクラスにおいては、下記の用語または表現は以下に示す意味で用いる:

— “アミノ酸” とは少なくとも 1 つのアミノ基と少なくとも 1 つのカルボキシル基が同じ炭素骨格に結合しており、アミノ基の窒素原子は環の一部を構成していてもよい化合物である。
— “ペプチド結合” とは、アミノ酸の α -アミノ基ともう一つの α -アミノ酸の 1 位のカルボキシル基との結合である。
— “擬ペプチド結合” とは、結合したアミノ酸のうちの少なくとも 1 つが、 α -アミノ酸でないような結合、または、 α -アミノ酸の側鎖の一部である少なくとも 1 つのカルボキシル基、またはアミノ基によって形成された結合である。
— “ペプチド” とは、オリゴペプチド、ポリペプチドおよび蛋白質を含み、少なくとも 1 つのペプチド結合を介して結合する 2 個以上のアミノ酸単位を含む化合物である。

(i) “鎖状ペプチド” とは、S-S 架橋を介して、あるいはヒドロキシアミノ酸あるいはメルカプトアミノ酸の水酸基あるいはメルカプト基ともう 1 つのアミノ酸のカルボキシル基の結合を介して形成された環 (例えばペプチドラクトン) を含んでいてもよいが、ペプチド結合を介してのみ形成される環は含まない。

(ii) “環状ペプチド” とは、ペプチド結合を介してのみ形成された環を少なくとも 1 つ含む化合物である; 環化はペプチド結合のみを介してでも、また擬ペプチド結合、例えば 2,4-ジアミノ-ブタン酸の 4-アミノ基を介してでも起こりうる。したがって、環の中の少なくとも 1 つの結合が非ペプチド結合である環式化合物は、“鎖状ペプチド” とみなされる。

(iii) “デブシペプチド” とは、少なくとも 2 つの α -アミノ酸と少なくとも 1 つの α -ヒドロキシカルボン酸との配列を含有し、少なくとも 1 つのペプチド結合と、ヒドロキシカルボン酸から誘導されたエステル結合を介して結合した化合物である。

(a) “鎖状デブシペプチド” とは、S-S 架橋を介して、あるいはヒドロキシアミノ酸あるいはメルカプトアミノ酸の水酸基あるいはメルカプト基ともう 1 つのアミノ酸あるいはヒドロキシ酸のカルボキシル基の結合を介して形成された環を含有してもよいが、ペプチドあるいはヒドロキシカルボン酸から誘導されたエステル結合を介してのみ形成された環は含有しない。即ち、 $\text{Gly-Ala-Gly-OCH}_2\text{COOH}$ と $\text{Gly-OCH}_2\text{CO-Ala-Gly}$ は、“鎖状デブシペプチド” とみなす。しかし、 $\text{HOCH}_2\text{CO-Gly-Ala-Gly}$ はエステル結合を有しておらず、5/08 に包含される Gly-Ala-Gly の誘導体となる。

(b) “環状デブシペプチド” とは、ペプチドあるいはヒドロキシカルボン酸から誘導されたエステル結合を介して形成された環を少なくとも 1 つ含むペプチドである。

Gly-Ala-Gly-OCH₂CO

例. [4]

(iv) “ハイブリッド・ペプチド” とは、2 つ以上の異種構造のペプチドが融合するか、または共有結合することによって生成されたペプチドである。

(2) サブクラス C07C から C07K に適用するラストプレイス優先ルールを規定するクラス C07 に続くクラス注 (3) に注意すること [8]

(3) 化合物の治療活性は、サブクラス A61P にさらに分類する。 [7]

(4) このサブクラスに分類するとき、クロマトグラフィーに係る一般分野の主題事項に関する限り、グループ B01D15/08 にも分類する。 [8]

(5) ペプチドフラグメントまたはアミノ酸の除去もしくは付加により、あるいは他のものによるアミノ酸の置換により、あるいはこれらの修飾の組み合わせにより修飾されたペプチドは、親ペプチドとして分類する。ただしアミノ酸を 4 個以下しか有しないペプチドのフラグメントはグループ 5/00 にも分類する。 [6]

(6) 化学的方法で製造され、天然生成のペプチドに由来するアミノ酸配列を有するペプチドは、その天然生成ペプチドで分類する。 [6]

(7) DNA 組換え技術により製造されたペプチドは、宿主に従って分類するのではなく、発現させた元のペプチドに従って分類する、例. 大腸菌で発現させた HIV ペプチドは HIV ペプチドで分類する。 [6]

サブクラス内の索引

ペプチド
製造 1/00
不確定数のアミノ酸を有するもの 2/00
不確定または一部しか確定していない配列をもつ、20 個以下のアミノ酸を有するもの 4/00
確定された配列をもつ、20 個以下のアミノ酸を含有するもの 5/00-9/00
確定された配列をもつ、20 個以下のアミノ酸を含有するデブシペプチド 11/00
21 個以上のアミノ酸を含有するもの 14/00
免疫グロブリン 16/00
担体結合または固定化されたペプチド 17/00
ハイブリッドペプチド 19/00
1/00	ペプチドの製造のための一般方法 [4]
1/02	・溶液中で [4]
1/04	・担体上で [4]
1/06	・保護基または活性化剤を使用するもの [4]
1/08	・活性化剤を使用するもの [4]
1/10	・カップリング試薬を使用するもの [4]
1/107	・前駆体ペプチドの化学的変成によるもの [6]
1/113	・一次構造を変更しないもの [6]
1/12	・加水分解によるもの [4]
1/13	・ペプチドの標識化 [6]
1/14	・抽出; 分離; 精製 [4, 6]
1/16	・クロマトグラフィーによるもの [6]

1/18	・・・イオン交換クロマトグラフィー[6]		
1/20	・・・分配、逆相または疎水性相互作用クロマトグラフィー[6]	5/072	・・・第一アミノ酸の側鎖がアミノ基よりも多くのカルボキシル基を含有しているもの、またはその誘導体、例. Asp, Glu, Asn[6]
1/22	・・・アフィニティー・クロマトグラフィー、または選択的吸着プロセスに基づく関連技術[6]	5/075	・・・Asp-Phe;その誘導体、例. アスパルテーム[6]
1/24	・・・電気化学的手段によるもの[6]	5/078	・・・第一アミノ酸が複素環式であるもの、例. Pro, His, Trp[6]
1/26	・・・電気泳動法[6]	5/08	・・・トリペプチド[4]
1/28	・・・等電点電気泳動[6]	5/083	・・・第一アミノ酸の側鎖が非環式であるもの、例. Gly, Ala[6]
1/30	・・・沈澱によるもの[6]	5/087	・・・第一アミノ酸の側鎖が炭素環式の環を含有しているもの、例. Phe, Tyr[6]
1/32	・・・複合体として[6]	5/09	・・・第一アミノ酸の側鎖がカルボキシル基よりも多くのアミノ基を含有しているもの、またはその誘導体、例. Lys, Arg[6]
1/34	・・・濾過、限外濾過または逆浸透[6]	5/093	・・・第一アミノ酸の側鎖がアミノ基よりも多くのカルボキシル基を含有するもの、またはその誘導体、例. Asp, Glu, Asn[6]
1/36	・・・異なる種類の2つ以上の方法の組み合わせによるもの[6]	5/097	・・・第一アミノ酸が複素環式であるもの、例. Pro, His, Trp, 例. 甲状腺刺激ホルモン放出ホルモン、メラニン細胞刺激ホルモン放出抑制因子[6]
2/00	不確定数のアミノ酸からなるペプチド;その誘導体[6]	5/10	・・・テトラペプチド[4]
4/00	不確定または一部分しか確定していない配列をもつ、20個以下のアミノ酸を含有するペプチド;その誘導体[6]	5/103	・・・第一アミノ酸の側鎖が非環式であるもの、例. Gly, Ala[6]
4/02	・・・ウイルスから[6]	5/107	・・・第一アミノ酸の側鎖が炭素環式の環を含有しているもの、例. Phe, Tyr[6]
4/04	・・・細菌から[6]	5/11	・・・第一アミノ酸の側鎖がカルボキシル基よりも多くのアミノ基を含有しているもの、またはその誘導体、例. Lys, Arg[6]
4/06	・・・菌類から[6]	5/113	・・・第一アミノ酸の側鎖がアミノ基よりも多くのカルボキシル基を含有しているもの、またはその誘導体、例. Asp, Glu, Asn[6]
4/08	・・・藻類から;地衣類から[6]	5/117	・・・第一アミノ酸が複素環式であるもの、例. Pro, His, Trp[6]
4/10	・・・植物から[6]	5/12	・・・環状ペプチド[4]
4/12	・・・動物から;ヒトから[6]	7/00	確定された配列をもつ、5から20個のアミノ酸を含有するペプチド;その誘導体[4, 6]
5/00	確定された配列をもつ、4個以下のアミノ酸を含有するペプチド;その誘導体[4]	7/02	・・・擬ペプチド結合を少なくとも1個含有する鎖状ペプチド[4]
注		7/04	・・・ペプチド結合のみを含有する鎖状ペプチド[4]
このグループにおいて、下記の表現は以下に示す意味で用いる:		7/06	・・・アミノ酸を5から11個含有するもの[4]
注		7/08	・・・アミノ酸を12から20個含有するもの[4, 6]
—“第一アミノ酸”とは、ペプチド配列の左側から一番目のアミノ酸、すなわち、N末端アミノ酸、を意味する。[6]		7/14	・・・アンジオテンシン;関連するペプチド[4]
5/02	・・・擬ペプチド結合を少なくとも1個含有するもの[4]	7/16	・・・オキシトシン;バソプレッシン;関連するペプチド[4]
5/023	・・・すくなくとも1個のβ-アミノ酸が含まれているもの[6]		
5/027	・・・すくなくとも1個のγ-アミノ酸が含まれているもの、例. スタチン[6]		
5/03	・・・すくなくとも1個のδ-アミノ酸が含まれているもの、例. イソスタチン[6]		
5/033	・・・すくなくとも1個のε-またはζ-アミノ酸が含まれているもの[6]		
5/037	・・・擬ペプチド結合がα-アミノ酸の側鎖により形成されているもの、例. γ-Glu, ε-Lys, グルタチオン[6]		
5/04	・・・ペプチド結合のみを含有するもの[4]		
5/06	・・・ジペプチド[4]		
5/062	・・・第一アミノ酸の側鎖が非環式であるもの、例. Gly, Ala[6]		
5/065	・・・第一アミノ酸の側鎖が炭素環式の環を含有しているもの、例. Phe, Tyr[6]		
5/068	・・・第一アミノ酸の側鎖がカルボキシル		

7/18	・ ・ カリジン;ブラジキニン;関連するペプチド[4]	14/07	・ ・ ・ ・ ワクシニアウイルス;痘瘡ウイルス[6]
7/22	・ ・ エレドイシン;関連するペプチド[4]	14/075	・ ・ ・ アデノウイルス科[6]
7/23	・ ・ 黄体形成ホルモン放出ホルモン[LHRH];関連するペプチド[2006. 01]	14/08	・ ・ RNA ウィルス[6]
7/28	・ ・ グラミシジン A, B, D;関連するペプチド[4]	14/085	・ ・ ・ ピコルナウイルス科, 例. コクサッキーウイルス, エコーウイルス, エンテロウイルス[6]
7/50	・ 擬ペプチド結合を少なくとも 1 個含有する環状ペプチド[4]	14/09	・ ・ ・ ・ 口蹄疫ウイルス[6]
7/52	・ ・ 環内にペプチド結合のみを有するもの[4]	14/095	・ ・ ・ ・ ライノウイルス[6]
7/54	・ ・ 環内に擬ペプチド結合を少なくとも 1 個有するもの[4]	14/10	・ ・ ・ ・ A 型肝炎ウイルス[6]
7/56	・ ・ ・ 2, 4—ジアミノブタン酸を介しないで環化が行われるもの[4]	14/105	・ ・ ・ ・ ポリオウイルス[6]
7/58	・ ・ ・ ・ バシトラシン;関連するペプチド[4]	14/11	・ ・ ・ オルソミクソウイルス科, 例. インフルエンザウイルス[6]
7/60	・ ・ ・ 2, 4—ジアミノブタン酸の 4—アミノ基を介して環化が行われるもの[4]	14/115	・ ・ ・ パラミクソウイルス科, 例. パラインフルエンザウイルス[6]
7/62	・ ・ ・ ・ ポリミキシン;関連するペプチド[4]	14/12	・ ・ ・ ・ おたふくかぜウイルス;はしかウイルス[6]
7/64	・ ペプチド結合のみを含有する環状ペプチド[4]	14/125	・ ・ ・ ・ ニューカッスル病ウイルス[6]
7/66	・ ・ グラミシジン S, C;チロシジン A, B, C;関連するペプチド[4]	14/13	・ ・ ・ ・ イヌズステンパーウイルス[6]
9/00	20 個以下のアミノ酸を含有し, 糖類基を含有し, 確定されたアミノ酸配列を有するペプチド;その誘導体[4, 6]	14/135	・ ・ ・ ・ レスプラトリシンシシアルウィルス[6]
11/00	確定されたアミノ酸配列をもつ, 20 個以下のアミノ酸を含有するデブシペプチド;その誘導体[4, 6]	14/14	・ ・ ・ レオウイルス科, 例. ロタウイルス, ブルータングウイルス, コロラドダニ熱ウイルス[6]
11/02	・ 環状, 例. バリノマイシン[4]	14/145	・ ・ ・ ラブドウイルス科, 例. 狂犬病ウイルス, ドウベンハグウイルス, モコラウイルス, 水疱性口内炎ウイルス
14/00	21 個以上のアミノ酸を含有するペプチド;ガストリン;ソマトスタチン;メラノトロピン;その誘導体[6]	14/15	・ ・ ・ レトロウイルス科, 例. ウシ白血病ウイルス, ネコ白血病ウイルス, ヒト T 細胞白血病—リンパ腫ウイルス[6]
14/005	・ ウィルスから[6]	14/155	・ ・ ・ ・ レンチウイルス, 例. ヒト免疫不全ウイルス[HIV], ビスナーマエディウイルス, ウマ伝染性貧血ウイルス[2006. 01]
14/01	・ ・ DNA ウィルス[6]	14/16	・ ・ ・ ・ ・ HIV—1[6]
14/015	・ ・ ・ パルボウイルス科, 例. ネコ汎全白血球減少症ウイルス, ヒトパルボウイルス[6]	14/165	・ ・ ・ コロナウイルス科, 例. ニワトリ伝染性気管支炎ウイルス[6]
14/02	・ ・ ・ ヘパドナウイルス科, 例. B 型肝炎ウイルス[6]	14/17	・ ・ ・ ・ ブタ伝染性胃腸炎ウイルス[6]
14/025	・ ・ ・ パポーバウイルス科, 例. 乳頭腫ウイルス, ポリオーマウイルス, SV40, BK ウィルス, JC ウィルス[6]	14/175	・ ・ ・ ブニヤウイルス科, 例. カリフォルニア脳炎ウイルス, リフトバレー熱ウイルス, ハンタールンウイルス[6]
14/03	・ ・ ・ ヘルペスウイルス科, 例. 仮性狂犬病ウイルス[6]	14/18	・ ・ ・ トガウイルス科, 例. フラビウイルス, ペスチウイルス, 黄熱病ウイルス, C 型肝炎ウイルス, 日本脳炎ウイルス[6]
14/035	・ ・ ・ ・ 単純ヘルペスウイルス I または II[6]	14/185	・ ・ ・ ・ ブタコレラウイルス[6]
14/04	・ ・ ・ ・ 水痘—帯状ヘルペスウイルス[6]	14/19	・ ・ ・ ・ 風疹ウイルス[6]
14/045	・ ・ ・ ・ サイトメガロウイルス[6]	14/195	・ 細菌から[6]
14/05	・ ・ ・ ・ エプスタイン—バーウイルス[6]	注	
14/055	・ ・ ・ ・ マレック病ウイルス[6]	・ グループ 14/20-14/365 において, 該当する場合は, 細菌の専門用語の後に, 細菌の目 (0) , 科 (F) または属 (G) が括弧内に示される。[6]	
14/06	・ ・ ・ ・ ウシ伝染性鼻腔気管炎ウイルス[6]	14/20	・ ・ スピロヘータ (0) から, 例. トレポネーマ, レプトスピラ[6]
14/065	・ ・ ・ ボックスウイルス科, 例. アビボックスウイルス[6]	14/205	・ ・ カンピロバクター (G) から[6]

- 14/21 ・ ・ シュードモナス (F) から[6]
- 14/215 ・ ・ ハロバクテリウム (F) から[6]
- 14/22 ・ ・ ナイセリア (F) から, 例. アシネトバク
ター[6]
- 14/225 ・ ・ アルカリゲネス (G) から, [6]
- 14/23 ・ ・ ブルセラ (G) から[6]
- 14/235 ・ ・ ボルデテラ (G) から[6]
- 14/24 ・ ・ エンテロバクター (F) から, 例. シトロ
バクター, セラチア, プロテウス, プロビ
デンシア, モルガネラ, エルシニア[6]
- 14/245 ・ ・ ・ エセリシア (G) [6]
- 14/25 ・ ・ ・ シゲラ (G) [6]
- 14/255 ・ ・ ・ サルモネラ (G) [6]
- 14/26 ・ ・ ・ クレブシエラ (G) [6]
- 14/265 ・ ・ ・ エンテロバクター (G) [6]
- 14/27 ・ ・ ・ エルウィニア (G) [6]
- 14/275 ・ ・ ・ ハフニア (G) [6]
- 14/28 ・ ・ ビブリオ (F) から[6]
- 14/285 ・ ・ パスツレラ (F) から, 例. インフルエン
ザ菌[6]
- 14/29 ・ ・ リケッチア (O) から[6]
- 14/295 ・ ・ クラミジア (O) から[6]
- 14/30 ・ ・ マイコプラズマ (O) から, 例. ウシ肺疫
菌様微生物[PPL0][2006. 01]
- 14/305 ・ ・ ミクロコッカス (F) から[6]
- 14/31 ・ ・ ・ ブドウ球菌 (G) から[6]
- 14/315 ・ ・ ストレプトコッカス (G) から, 例. エン
テロコッカス[6]
- 14/32 ・ ・ バチルス (G) から[6]
- 14/325 ・ ・ ・ バチルスチューリングゲンシス結晶ペ
プチド (δ -エンドトキシン) [2006. 01]
- 14/33 ・ ・ クロストリジウム (G) から[6]
- 14/335 ・ ・ ラクトバチルス (G) から[6]
- 14/34 ・ ・ コリネバクテリウム (G) から[6]
- 14/345 ・ ・ プレビバクテリウム (G) から[6]
- 14/35 ・ ・ マイコバクテリウム (F) から[6]
- 14/355 ・ ・ ノカルジア (G) から[6]
- 14/36 ・ ・ アクチノミセスから; ストレプトミセス
(G) から[6]
- 14/365 ・ ・ アクチノプラネス (G) から[6]
- 14/37 ・ 菌類から[6]
- 14/375 ・ ・ 担子菌から[6]
- 14/38 ・ ・ アスペルギルスから[6]
- 14/385 ・ ・ ペニシリウムから[6]
- 14/39 ・ ・ 酵母から[6]
- 14/395 ・ ・ ・ サッカロミセスから[6]
- 14/40 ・ ・ ・ カンジダから[6]
- 14/405 ・ 藻類から[6]
- 14/41 ・ 地衣類から[6]
- 14/415 ・ 植物から[6]
- 14/42 ・ ・ レクチン, 例. コンカナバリン, 血球凝集
素[6]
- 14/425 ・ ・ ゼイン[6]
- 14/43 ・ ・ タウマチン[6]
- 14/435 ・ 動物から; ヒトから[6]
- 14/44 ・ ・ 原生動物から[6]
- 14/445 ・ ・ ・ マラリア原虫[6]
- 14/45 ・ ・ ・ トキソプラズマ[6]
- 14/455 ・ ・ ・ エイメリア[6]
- 14/46 ・ ・ 脊椎動物から[6]
- 14/465 ・ ・ ・ 鳥類から[6]
- 14/47 ・ ・ ・ 哺乳動物から[6]
- 14/475 ・ ・ 成長因子; 成長調節因子[6]
- 14/48 ・ ・ ・ 神経成長因子[NGF][2006. 01]
- 14/485 ・ ・ ・ 上皮細胞成長因子[EGF], すなわちウ
ロガストロン[2006. 01]
- 14/49 ・ ・ ・ 血小板由来成長因子[PDGF][2006. 01]
- 14/495 ・ ・ ・ トランスフォーミング成長因子
[TGF][2006. 01]
- 14/50 ・ ・ ・ 繊維芽細胞成長因子[FGF][2006. 01]
- 14/505 ・ ・ ・ エリトロポエチン[EPO][2006. 01]
- 14/51 ・ ・ ・ 骨形成因子; オステオゲニン; オステ
オゲニックファクター; 骨誘導因子[6]
- 14/515 ・ ・ ・ 血管形成誘導因子; アンギオゲニン[6]
- 14/52 ・ ・ サイトカイン; リンホカイン; インター
フェロン[6]
- 14/525 ・ ・ ・ 腫瘍壊死因子[TNF][2006. 01]
- 14/53 ・ ・ ・ コロニー刺激因子[CSF][2006. 01]
- 14/535 ・ ・ ・ 顆粒球 CSF; 顆粒球-マクロファ-
ージ CSF[6]
- 14/54 ・ ・ ・ インターロイキン[IL][2006. 01]
- 14/545 ・ ・ ・ ・ IL-1[6]
- 14/55 ・ ・ ・ ・ IL-2[6]
- 14/555 ・ ・ ・ インターフェロン[IFN][2006. 01]
- 14/56 ・ ・ ・ ・ IFN- α [6]
- 14/565 ・ ・ ・ ・ IFN- β [6]
- 14/57 ・ ・ ・ ・ IFN- γ [6]
- 14/575 ・ ・ ホルモン[6]
- 14/58 ・ ・ ・ 心房性ナトリウム利尿因子複合体;
アトリオペプチン; 心房性ナトリウム利
尿ペプチド[ANP]; カルジオナトリン; カ
ルジオジラチン[2006. 01]
- 14/585 ・ ・ ・ カルシトニン[6]
- 14/59 ・ ・ ・ 濾胞刺激ホルモン[FSH]; 絨毛性性腺
刺激ホルモン, 例. hCG[ヒト絨毛性性腺刺
激ホルモン]; 黄体形成ホルモン[LH]; 甲
状腺刺激ホルモン[TSH][2006. 01]
- 14/595 ・ ・ ・ ガストリン; コレシストキニン
[CCK][2006. 01]
- 14/60 ・ ・ ・ 成長ホルモン放出因子[GHRF], すな
わちソマトリベリン[2006. 01]
- 14/605 ・ ・ ・ グルカゴン[6]
- 14/61 ・ ・ ・ 成長ホルモン[GH], すなわちソマト
ロピン[2006. 01]
- 14/615 ・ ・ ・ 天然起源のものから抽出[6]
- 14/62 ・ ・ ・ インシュリン[6]

14/625	・ ・ ・ 天然起源のものから抽出[6]	14/805	・ ・ ヘモグロビン;ミオグロビン[6]
14/63	・ ・ ・ モチリン[6]	14/81	・ プロテアーゼインヒビター[6]
14/635	・ ・ ・ 副甲状腺ホルモン, すなわちパラトル モン;副甲状腺ホルモン関連ペプチド [2006. 01]	14/815	・ ・ ヒルから, 例. ヒルジン, エグリン[6]
14/64	・ ・ ・ リラクシン[6]	14/82	・ 癌遺伝子からの翻訳産物[6]
14/645	・ ・ ・ セクレチン[6]	14/825	・ メタロチオネイン[6]
14/65	・ ・ ・ インシュリン様成長因子, すなわちソ マトメジン, 例. IGF-1, IGF-2[2006. 01]	16/00	免疫グロブリン, 例. モノクローナル抗体ま たはポリクローナル抗体[6]
14/655	・ ・ ・ ソマトスタチン[6]	16/02	・ 卵から[6]
14/66	・ ・ ・ チモポエチン[6]	16/04	・ 牛乳から[6]
14/665	・ ・ プロオピオメラノコルチン, プロエ ンケファリンまたはプロダイノルフィ ンに由来するもの[6]	16/06	・ 血清から[6]
14/67	・ ・ ・ リポトロピン, 例. β -または γ -リ ポトロピン[6]	16/08	・ ウイルスからの物質に対するもの[6]
14/675	・ ・ ・ β -エンドルフィン[6]	16/10	・ ・ RNA ウイルスから[6]
14/68	・ ・ ・ メラニン細胞刺激ホルモン [MSH][2006. 01]	16/12	・ 細菌からの物質に対するもの[6]
14/685	・ ・ ・ ・ α -メラノトロピン[6]	16/14	・ 菌類, 藻類または地衣類からの物質に対す るもの[6]
14/69	・ ・ ・ ・ β -メラノトロピン[6]	16/16	・ 植物からの物質に対するもの[6]
14/695	・ ・ ・ コルチコトロピン[ACTH][2006. 01]	16/18	・ 動物またはヒトからの物質に対するもの [6]
14/70	・ ・ ・ エンケファリン[6]	16/20	・ ・ 原生動物から[6]
14/705	・ ・ レセプター;細胞表面抗原;細胞表面決 定因子[6]	16/22	・ ・ 成長因子に対するもの[6]
14/71	・ ・ ・ 成長因子に対する;成長調節因子に対 する[6]	16/24	・ ・ サイトカイン, リンホカインまたはイン ターフェロンに対するもの[6]
14/715	・ ・ ・ サイトカインに対する;リンホカイン に対する;インターフェロンに対する[6]	16/26	・ ・ ホルモンに対するもの[6]
14/72	・ ・ ・ ホルモンに対する[6]	16/28	・ ・ レセプター, 細胞表面抗原または細胞表 面決定因子に対するもの[6]
14/725	・ ・ ・ T細胞レセプター[6]	16/30	・ ・ ・ 腫瘍細胞から[6]
14/73	・ ・ ・ ・ CD4[6]	16/32	・ ・ 癌遺伝子からの翻訳産物に対するもの [6]
14/735	・ ・ ・ FCレセプター[6]	16/34	・ ・ 血液型抗原に対するもの[6]
14/74	・ ・ ・ 主要組織適合性因子複合体 [MHC][2006. 01]	16/36	・ ・ 血液凝固因子に対するもの[6]
14/745	・ ・ 血液凝固因子または繊維素溶解因子[6]	16/38	・ ペプチド構造のプロテアーゼインヒビタ ーに対するもの[6]
14/75	・ ・ ・ フィブリノーゲン[6]	16/40	・ 酵素に対するもの[6]
14/755	・ ・ ・ 第VIII因子[6]	16/42	・ 免疫グロブリンに対するもの(抗イディオ タイプ抗体)[6]
14/76	・ ・ アルブミン[6]	16/44	・ 他に分類されない物質に対するもの[6]
14/765	・ ・ ・ 血清アルブミン, 例. HSA[6]	16/46	・ ハイブリッド免疫グロブリン(免疫グロ ブリンでないペプチドと免疫グロブリン のハイブリッドC07K19/00)[6]
14/77	・ ・ ・ オボアルブミン[6]	17/00	担体結合または固定化されたペプチド;そ の調製[4]
14/775	・ ・ アポリポペプチド[6]	17/02	・ 有機担体上または内部に固定化されたペ プチド[4]
14/78	・ ・ 結合組織ペプチド, 例. コラーゲン, エラ スチン, ラミニン, フィブロネクチン, ビ トロネクチンまたは低温不溶性グロブリン [CIG][2006. 01]	17/04	・ ・ 担体, 例. ゲル, 中空繊維, 内に捕捉され たもの[4]
14/785	・ ・ 肺胞表面活性ペプチド;肺表面活性ペプ チド[6]	17/06	・ ・ 架橋剤によって担体と結合したもの[4]
14/79	・ ・ トランスフェリン, 例. ラクトフェリン, オボトランスフェリン[6]	17/08	・ ・ 担体が合成高分子であるもの[4]
14/795	・ ・ ポルフィリン環またはコリン環含有ペプ チド[6]	17/10	・ ・ 担体が炭水化物であるもの[4]
14/80	・ ・ チトクローム[6]	17/12	・ ・ ・ セルロースまたはその誘導体[4]
		17/14	・ 無機担体上または内部に固定化されたペ プチド[4]
		19/00	ハイブリッドペプチド(免疫グロブリンの みからなるハイブリッド免疫グロブリン

C 0 7 K

C07K16/46) [6]